

本人が物語風に綴る闘病記

44歳で甲状腺がんと中咽頭がんが見つかりましたが、
中2の娘が「大したことないやん」と言うので。

著：原 利彦（1972年 生まれ）



治療完遂ハラトシ作戦編 037：治療完遂ハラト作戦其の3。

2017年5月2日（火）（抗がん剤治療1/2回目・放射線治療7/39回目）

基本的に規則正しい『治療』『リハビリ』『散歩』『食う』『寝る』の毎日です。

しかし、トキが機械化出来ない理由は、入院前にウタから言われた一言にありました。

「お父さん、入院中に時間があるやん！ハリー・ポッターみたいな物語を書いて！」

トキは入院前から燃えていました。

確かに副作用の合間を縫えば、それなりの時間があるはずですが、また、『治療完遂』という目標へは、ルールを守り、耐えさえすれば、強制的に進んでいくはずですが、多分。

つまり、他に楽しい目標を立て、それを夢中で遂行する間に時が進めばと、いつの間にか、完遂していればと、かなりの希望的作戦です。

そこで、トキは、いわゆる『やることリスト』を考えてみました。

3-1：
治療以外の楽しい目標を立てる

絶対に無理をしてはいけません。

やれる時に、やりたい時にだけやれば良いのです。もっと言えば、やらなくても良いのです。

しかし、これは目標です。ある程度、義務的にやらなければ意味がありません。



ウタから頼まれ、しかも喜ぶ内容は幸いです。また、以前から『やりたい』と思いながら時間が無くて出来ずにいたことなど。トキの場合は趣味の延長から、いくつかの楽しい目標を立ててみました。

- ① **ウタのために、『ハリー・ポッターのような物語』を書くこと。その挿絵を描くこと。**
- ② **ウタの似顔絵を描くこと。**
- ③ **パソコンに保存してあるデータを整理すること。**
- ④ **買ってから1度しか聴いていない、音楽CDを改めて聴き直してみることに。**
- ⑤ **ストーリーを思い出せなくて、もう1度、観たいと思っている映画のDVDを観ること。**

『病気は人生の夏休み。』

廊下の掲示板に貼ってあるポスターに、そう、キャッチコピーが書いてあります。

勿論、そんな悠長なことは言ってられません。

しかし、**そのように例えることで、治療への諸々を乗り越える何かにつなげることは大切です。**

3-2 : 可能な限り、挨拶をする。

トキと同室の皆さんには勿論、病院のスタッフや他患者、他患者を見舞いに來た家族なども含めて、入院病棟がある6階ですれ違う時にです。**明るさを振りまき、皆を元気にしたいからではありません。**



トキは単純に『若い』というだけで視線を集めます。さらに、頸の大きな手術痕です。随分、浴び慣れた視線でしたが、それでも、まだ、避けようと身を低くしていました。誰も思ってもいないことまで、あれやこれやと考えてしまいます。そんなことに、精神的体力を奪われたくなかったのです。トキの方から、

(見ても構いませんよ)と言わんばかりに、軽い笑顔で会釈するだけで、実際、それまで、チラチラという、途切れ途切れの冷たかった視線が、真っすぐな、温かい視線に変わってきたように、トキは感じていました。さらに、人によっては2度、3度目となると、同じように返してくるようになりました。この、いわゆる『習慣』も、

機械化しないための作戦のひとつでありました。

⇒ 038 : アポなし見舞いと洗濯問題。